平成１６年度 第１８回 関東大学サッカー選手権大会 ３位決定戦

KOMAZAWA ✕ KOKUSHIKAN

駒澤大学２－０国士舘大学

危ないシーンも何度かあったが安定したチームワークで無失点に抑えたＤＦ陣。写真左は小林亮(撮影・野澤俊介)

第３代表で総理大臣杯へ！！

強い気持ちが勝利を引き寄せた！

『再出発』。これはこの試合に臨む選手たちの共通の意識であった。準決勝で明大に屈辱の敗戦を喫した駒大は、再び自分たちのサッカーを取り戻すべく、３位決定戦に挑んだ。

前半６分、早くも駒大に歓喜が訪れる。右サイドで得たＦＫ。キッカー**中後**がファーに鋭いボールを入れる。そこに**相山**がヘッドで合わせ先制。トップチームでの公式戦初出場を果たした**相山**の「全力でやろうということを考えて試合に臨んだ」という強い気持ちからうまれたゴールであった。この先制点から波に乗りたい駒大は、両サイドのスペースを突く攻めから何度かチャンスを作る。果敢にゴールを狙う駒大だが、なかなか追加点をあげることが出来ない。逆に、国士大に駒大ＤＦがドリブルでかわされＧＫと一対一の状況を与えてしまう。しかしここは太の堅守が光り、このピンチを逃れ、１－０で前半終了。

前半は試合の主導権を握っていた駒大だが、後半に入ると国士大にボールを回される場面が多くなる。だが「ＤＦ４人がうまくポジショニング出来てたり、声がよくかかっていた」（**小林亮**）というように、駒大ＤＦは**鈴木祐**を中心に相手ＦＷを前に向かせることなく、ゴールを守る。そして８８分、国士大のバックパスに**原**がプレスをかけＧＫのミスを誘う。そのこぼれ球を**鈴木亮**がすかさずシュート。この追加点が試合を決定付けた。

この日の勝利は「絶対に勝ちたい気持ちがあった。何が何でも結果を出そうと、勝ちにいった」（**鈴木祐**）という、選手の強い気持ちが実を結んだ結果であった。やはり**鈴木祐**が常に言ってきているように、駒大のサッカーが出来るか出来ないかは『気持ち』の部分にかかっている。

７月６日、全国の大学と頂点を争う総理大臣杯が幕を開ける。新たに気持ちを引き締め、３連覇に向かって突き進んで欲しい。（伊藤優香）